

教育講演

子どもたちのスピリチュアルケアとエンパワメント

石井享子（法政大学 現代福祉学部・人間社会研究科教授）

子どもたちのすこやかな育ちを支えるには、子どもたちにとって最適な環境状況が求められることは言うまでもない。

最適な環境を理解するには、自然環境、社会環境、家庭内環境、住居環境、教育環境（保育園や幼稚園、学童保育、学校、塾など習い事的环境）をはじめ、近隣住民や子ども同士の間関係、育児制度や教育制度、その他いろいろな視点が重要である。

子どもたちのスピリチュアルケアに向け、まずはその多様性に注目する必要がある。子どもの年齢や発達課題、育つコミュニティの文化や風土、地域コミュニティの歴史、家族や地域住民の人生や子どもの成長に関する信念や価値観、両親の生活環境、経済状況、労働環境、育児環境、先祖や世代間継承の環境、子どもから成人達成を認めるさまざまな儀式、世界における子どもの位置づけ、育児の在り方、成人と認める年齢など、歴史に根差した文化の受容が大切である。

19世紀以前までの子どもの立場は、国や地域により多様で複雑であった。近年においても、低所得層のコミュニティで、子どもの労働力化が大きな問題になっている。子どもが軍事行為の手助けとして、駆り出さ

れる地域がある。豊かな地域では、いじめや自死の問題が大きくなりつつある。

子どもたちが未来に向けてみる夢は何か！

子どもたちが誰に育てられているか！

子ども時代に体験する不思議な経験！

これから子どもたちに与えたい「子育て環境」について、スピリチュアルケアとエンパワメントという視点から、述べる。

—プロフィール—

石井享子（いしい・ゆきこ）

法政大学 現代福祉学部・人間社会研究科教授。1988年聖路加看護大学院修士課程修了。神奈川県職員、聖路加看護大学・その他大学院等で教職。国立公衆衛生院研究・研修機関、ジョージタウン大学院公共政策研究所特別客員研究員、国立保健医療科学院福祉サービス部を経て現職。法政大学人間社会研究科専攻主任、日本心霊科学協会常任理事。

